

すべての女性が輝く明日のために

# JAUW会報

第255号  
2015年7月



一般社団法人  
大学女性協会



上段：第4回定時会員総会 エル・パーク仙台「セミナーホール」 2015年5月22日（金）  
下段：左側より渋谷由美子仙台支部長・高田武子東日本大震災災害地支援事業特設委員長・仙台支部バザー会場

## もくじ

### 〈第4回定時会員総会特集〉

中村久瑠美会長あいさつ……………	2	本部からの報告・山崎倫子元会長を偲んで…	8
総会議事抄録・講演……………	3	委員会報告……………	9
報告及び懇談・研修旅行「被災地見学」…	4	国際奨学生報告会・選考結果	
世界の女性との連携……………	5	ダンカン・ダンス・コンサート……………	10
守田科学研究奨励賞贈呈式報告……………	6	支部だより 北から～南から……………	11
受賞者研究論文概要……………	7	2015年 JAUW 全国セミナーのご案内 ……	12
		2015年度国内奨学生募集のご案内ほか	

## 第4回定時会員総会を終えて

### 会 長 中村久瑠美

一般社団法人に組織替えをして第4回目の定時会員総会は、平成27年5月22日（金）に無事終了しました。会場として仙台市のエル・パーク仙台（仙台市男女共同参画推進センター）セミナーホールをお借りし、出席者総数500名（出席者95名 議決権行使書提出者数405名）を得て正会員882名の過半数以上の出席をもって成立したものです。

仙台は今まさに青葉萌える一年で最も美しい季節を迎え、渋谷支部長と谷地森実行委員長を中心に仙台支部会員が一丸となって本総会をアレンジしてくださいました。総会前日の支部長会、引き続きの懇親会を開催、そして総会翌日の研修旅行では、4年前の東日本大震災の爪跡と復興状況を視察するなど、盛り沢山で有意義な3日間でした。

仙台支部の方々にはこの総会開催のために多大なご尽力をいただき、本当にお疲れ様でした。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

さて、総会は議案書に従い、審議事項が2件ありました。

**1号議案**が貸借対照表及び正味財産増減計算書の承認に関する件

**2号議案**が理事の1名選任の件

監査による監査報告を経ていずれも賛成多数で承認。

報告事項は、2014年度の事業報告と公益目的支出計画実施報告がなされました。JAUWがこの1年どんな活動してきたかの詳細は、この事業報告をお読みいただければ一目瞭然です。

一般会員にとって多少（いや相当）分かりづらいのは、「公益目的支出計画」というものです。大学女性協会は、従来長らく文部省許可の公益社団法人でした。平成18年の民法、法人規定の全面改正により、従来の公益法人から一般社団法人に移行して再出発した結果、従前の公益法人時代の残余財産を向こう10数年かけて「公益目的事業」のために毎年計画的に支出し続けることが内閣府より義務付けられています。これは阿部前会長から以前詳しいご説明があり、今回総会に出席された方には、当日会長の私や森川財務理事より、かなり詳細な説明を付け加えましたので相当程度お分かりいただけたかと思いますが、なかなかなじみにく

い概念です。現在のJAUWは、移行法人として公益目的事業の為に支出を義務づけられていること、予算の使い方も内閣府の厳しい監視下において会計、財務理事はじめ役員一同、厳粛に緊張感をもって取り組んでいることを、ご理解いただきたいと思います。



その他報告事項で重要なことは、①会員拡大 ②IFUWの名称変更でした。

①2014年は、JAUWの活性化のため会員を100名増強することを目指して、本部に会員拡大特別委員会を創設しました。JAUWはじまって以来のことです。なにはともあれ、各支部は現在在籍数の1割増強を来年5月までに達成することを厳守してください。

会員拡大のためのワークショップを昨年は東京と芦屋の2か所で開催したところ大変好評で、今年度も本部主催で行う予定もあり、各支部毎に、ワークショップで会員の意識強化に努められたいと願いました。

②IFUWはGWI（Graduate Women International）に2015年4月名称変更されました。イメージアップと公益法人化をおこない、スイスの法律に従って定款変更をして、税制上の優遇措置を得て募金活動に繋げようというものです。詳細はCIR山下理事の報告を参照してください。

同日午後は、野家教授による「大震災後をどう生きるか」の講演会と各委員長・各支部長からの活動報告が続き、盛りだくさんのスケジュールで、大変充実したものでした。

会員の最高意思決定機関である総会の重要性は言うまでもありませんが、年に一度懐かしい支部会員のお顔に接し、互いに元気を確認し励ましあえるJAUWの総会の意義と楽しさは、出席してみればじめて実感されることでしょう。これからも総会には、全国から会員の皆様方が1人でも多く出席していただき、JAUWの絆をより強固なものにして参りたくよろしく申し上げます。



## 第4回定時会員総会議事抄録

日時：2015年5月22日（金）9：30～12：02

場所：エル・パーク仙台「セミナーホール」（仙台市青葉区）

1. 総会成立確認：桑折総務理事より、2015年5月22日、午前9時30分現在の出席者数95名、議決権行使書提出者数405名、出席者合計500名を報告。正会員882名の過半数442名以上の出席により、総会の成立を確認。
2. 開会の辞：逝去会員6名の冥福を祈って、黙祷。次いで、中村会長より開会の挨拶があった。
3. 議長選出：定款に基づき、中村久瑠美会長が議長となる。
4. 書記選出：牧島悠美子・田辺光子
5. 議事：
 

第1号議案 貸借対照表及び正味財産増減計算書の承認に関する件：柏木会計理事より、議案書に基づき貸借対照表、正味財産増減計算書、財務諸表に対する注記について説明。続いて大森監事より、業務及び会計監査の報告があったの

## 公開講演会：大震災後をどう生きるか ～科学技術と価値の組み替え～

東北大学教養教育院総長特命教授 野家 啓一

5月22日に科学哲学がご専門の野家啓一先生をお招きして公開講演会が開催されました。一般の市民の方も参加され、有意義な講演会となりました。

3.11の大震災では先生も被災され、その体験を交えながら福島原発の事故に象徴される我々の科学技術文明がどういう方向に進むべきなのか、非常に大きな問いを突き付けられた災害であった、と講演をはじめられました。

震災後4年、記憶が薄れていくなか、記憶と忘却のせめぎ合いの中でこの経験を後の世代に伝えていくことが必要になり、文明災のヒロシマ・関東大震災などの記憶を継承しなければならないこと。また、震災後、フクシマ事故などから、科学者への信頼が激減し、つまり「信頼神話」が崩壊し、信頼の危機がきていること。夏目漱石の弟子である寺田寅彦の関東大震災からの警告（『天災と国防』）や、1755年のリスボンの大震災から、啓蒙的近代のはじまったこと（カントの『地震論』）などをお話しされました。

トランスサイエンスとリスクの社会の到来、トランスサイエンスとは科学では答えることができない問題群である

ち、議長が同議案の承認を諮り、異議なく承認可決された。第2号議案 理事1名選任の件：縄田副会長より、議案書に基づき「理事候補者 菊池摩耶子の選任」について提案、岩村役員選考委員長より理事候補者推薦についての説明ののち、議長が同議案の選任を議場に諮ったところ、挙手賛成93名、議決権行使書提出者404名、計497名がこれを承認し選任可決された。尚、被選任者は、その席上で就任を承諾した。

### 報告事項

1. 2014年度事業報告、2. 公益目的支出計画実施報告及び監査報告、3. 2015年度事業計画及び予算につき各担当理事が説明、監査については阿部監事からの報告があった。
6. 会員拡大について：2014年7月、会員拡大特別委員会を創設。来年の総会までに各支部で1割増強を目標とする。
7. IFUW 名称変更について：
 

IFUW (International Federation of University Women) は、2015年4月よりGWI (Graduate Women International) に名称を変更。
8. 次期総会開催地に関する提案：
 

2016年度全国総会並びに第5回定時会員総会を神戸市において開催する。
9. その他：ネパール大学女性協会に大震災のお見舞金を送ることを提案。総会会場にて募金を行った。

こと。外的環境に起因し、しばしば制御困難な自然災害などの「危険」とは異なり、「リスク」は人的災害等、人間の選択や意思決定に起因する制御可能なものと定義できる。科学技術もリスクの源泉となり得るため、科学者には社会的責任が問われる。「科学と社会の間」の倫理規範、新しい政策や科学の価値転換が必須となろう——。先生はさらに、未来世代への責任、十万年後の安全、科学技術のシビリアン・コントロールなどについても述べられました。

おわりに高木仁三郎氏の『宮沢賢治をめぐる冒険』から「～本当に子供たちのためにいい環境を残したい。生きるための場を残したい。そのことをどこまで、科学の中味に入れていけるかが私たちの課題です。」と結ばれました。



講演をされる野家啓一先生

## 総会午後の部 公開講演会と報告及び懇談

総会午後の部では、東北大学総長特命教授 野家啓一氏による公開講演会「大震災後をどう生きるか」(別記)と東日本大震災災害地支援についての報告に続いて「報告及び懇談」が行われた。

### (1) 2015年度全国セミナーについて企画委員長の報告

テーマ:「女性の自立とは？」

—女性の自立をはばむものは何か—

日程:2015年10月17日(土)・18日(日)

場所:つくば国際会議場(つくば市)

- (2) 委員長・支部長(含む代理)の報告  
各委員会・支部の取り組んでいる主な活動と課題について報告が行われた。
- (3) VGIF 国際基金についての報告  
担当より VGIF 国際基金について広報が行われた。

次いで会長より総会会場で行われた「ネパール大震災支援募金」についての報告と感謝が述べられた。

最後に総会開催地仙台支部長の挨拶があり、閉会の辞をもって2015年度全国総会の幕を閉じた。

## 全国総会・第4回定時会員総会 開催報告

仙台支部実行委員長 谷地森涼子

2015年度全国総会は仙台で開催しました。5月21日の支部長会と懇親会は仙台国際ホテル、22日の総会はエル・パーク仙台で開催。23日の研修会は、仙台市沿岸の被災地めぐりをいたしました。支部長会には、全国から24支部と理事15名が集まり、各実施事業の報告、全国セミナー、IFUW



懇親会での谷地森実行委員長

の名称変更、会員拡大等についての説明がなされ、活発な質疑応答が行われました。続いての懇親会には、ご来賓に奥山恵美子仙台市長を迎え、106名が出席。東日本大震災後の被災地支援事業の経緯について、青木元会長、高田特設委員長のお話をいただき、最後に仙台支部ならではの、支部会員によるコンサートを披露いたしました。

22日の第4回定時会員総会には、126名の申し込みがあり、第2号議案の「理事候補者菊地摩耶子の選任」では賛成多数で可決されました。引き続き3事項について報告がなされました。次期総会開催地は神戸市に決まりました。

午後の公開講演会では、「大震災後をどう生きるか—科学技術と価値観の転換—」と題し、野家啓一氏(東北大学総長特命教授)のお話を聞きました。文学と科学を結び付けた斬新な切り口で、わかりやすく、興味深い内容のお話でした。

仙台支部としては全日程を、全国会員から寄せられた被災地支援に感謝の思いを込め、総力上げて運営しました。

## 研修旅行「被災地見学」を 担当して

仙台支部 小関 和子

参加人数79名の方々と、バス2台で仙台市荒浜～名取市関上へ向かい、壊滅的な被害を受けた沿岸部の現状を視察しました。復興は日々進んではいるものの、未だ未だ道半ばです。皆様の胸中に去来されたものは…。

昼食は、緑豊かな郊外に佇む旧伊達邸鐘景閣で、ゆっくりと和食を楽しみ、寛いでいただきました。純日本建築、美しい日本庭園に心和む一時でもありました。

当日は五月晴れの好天に恵まれ、全員元気で仙台駅に到着し、無事予定を終了する事ができました。皆様のご協力に感謝いたします。



名取市関上の津波跡



旧伊達邸鐘景閣にて昼食



# 世界の女性との連携

## Graduate Women International

(仮訳・大卒女性インターナショナル)

IFUW が GWI と名称を改め、スタートしました

CIR 山下いづみ

今年4月27日をもって、International Federation of University Women (IFUW) が新名称、Graduate Women International (GWI) となりスタートを切りました。昨年12月IFUW理事会からよりモダンな、私たち団体をよりの確に表す名称だと名称変更の強い要望がありました。その後、メールでのディスカッション(メーリングリストに登録している会員間)からはじまり、名称変更別案、電子投票による規約改正の可否投票を経て、3月15日の投票結果、70%の支持を持って名称変更が決定しました。

JAUW 理事会では IFUW の名称変更には慎重に取り組んできました。しかしIFUW理事会では免税措置の認められる公益法人化をはかり、募金活動を積極的に前進させるためにも名称変更は不可避であるとの強いメッセージが繰り返され、またその実現のためスイスの法律により、定款の解散条項の修正が必要であることも判明し、最終的には、名称変更と定款修正に賛成票を投じました。

## 公開講演会 国際女性デーによせて

### 「子どもの人権―人身取引をめぐる―」

国際ネットワーク委員長 鷲見八重子

3月4日(水)1:30~4:30、津田塾大学同窓会会議室にて、国連の「国際女性デー」(3月8日)にちなみ標記の公開講演会が開催された。参加者30名。田中由美子氏(JICA国際協力専門員)は「アジアの女性と子どもの人身取引対策―JICAの取り組み事例を中心に」、城倉純子氏(女性エンパワーメント委員長)は「人身取引―日本の現状と課題」と題して、おもにタイ農村部から日本へと人身取引される女兒の実態を報告された。

お二人の講演と対談から見えてきたのは、子どもの人身取引は決して他人事ではない、むしろ日本が大きな受け皿になっているという現実であった。悪徳ブローカーが暗躍し、東南アジアの貧しい子どもを甘言で集めて日本へ入国させ低賃金労働で酷使する、果ては性産業へと売り飛ばすという人権侵害の連鎖。人身取引は、世界の国々が国際的に取り組むべき喫緊の課題であることが深く理解でき、有意義な時間となった。



JICA国際協力専門員の田中由美子さん(中央)と百生さん(右端)

## 参加資格と渡航費を JAUW が支援 ～CSW59 & FORUM に参加して～



3/9政府共催サイドイベント会場にて、木藤さん(左) 杉山さん(右)

木藤まどか 城西国際大学大学院 人文科学研究科(博士課程)

CSW59へ参加し、印象に残っているのは、CSW 全体の参加者が多様になったということです。私にとって今回は2回目の参加で、前回のCSW56に比べ、今回は若年層が多く世代の幅の広がり、男性参加者や初参加の方の割合の増加を感じました。今回、日本主催のサイド・イベントのお手伝い、その他イベントで世界各地から参加する多くの方々との交流を通して、困難な状況の解決に向き合おうとする人々の逞しさを感じました。当事者である女性や子どもだけでなく、性別や立場を超え、多くの人々が一緒になって問題の解決に取り組むことが不可欠であることを再認識しました。今回、「北京+20」という記念すべきCSWに参加して、経験し学んだことは、今後自身の研究や活動にも活かして参りたいと考えております。この場をお借りいたしまして、今回のCSW59参加にあたりご支援くださいました大学女性協会の皆様にお礼申し上げます。

杉山万由子 慶應義塾大学法学部法律学科2年

私は、自身がストーカー被害に遭ったことが契機となり、性犯罪被害者支援に関心を持ち始めたため、国連婦人の地位委員会(CSW)は自身の関心事と合致し、毎回大変学びが多く、今回JAUW若者支援をしていただき2度目のCSW参加となった。CSW57よりも、参加者が増加し、更に男性の参画も増え、年齢層も幅広く大変良い変化が見られた。また、今回どのセッションでもHe For Sheキャンペーンについて言及されることが多かった。日本もこのような有名人を起用したキャンペーンを実施すれば、もっとジェンダー平等についての関心が高まり、良い効果が期待出来るのではないかと思った。私は、今回得た学びを活かし、日本は男女平等だと思い込んでいる人たちへの啓発、ジェンダーの視点から捉えた日本の様々な課題を今から取り組んでいきたい。そして、来年度からは刑事政策を専攻し、犯罪被害者支援法について学び、将来は必ずや性犯罪被害に苦しむ女性を救い、法的支援を充実させたい。

### 来年、GWI 総会はケープタウンで！

ケープタウン(南アフリカ共和国)にてGWI総会が開催されます。

期間 2016年8月21日～23日(会員のみ)  
24日～26日(一般公開)

# 第17回大学女性協会 守田科学研究奨励賞贈呈式



中村会長と両受賞者を囲む関係者



花束贈呈 (左:ご子息から浅井博士へ、右:2013年受賞者大矢根博士から椋山博士へ)



科学研究奨励委員会委員長 **今野 美智子**

アルカディア市ヶ谷会館において5月30日(土)第17回守田科学研究奨励賞の贈呈式、引き続き受賞パーティが開催された。受賞者は、太陽物理学分野の浅井歩博士と有機化学分野の椋山儀恵博士である。

浅井歩博士は、2004年に京都大学大学院理学系研究科で博士号を取得された後、国立天文台太陽電波観測所上級研究員となられ、2010年に京都大学の宇宙総合科学研究ユニット特定助教、2014年からは同特定准教授となられた。浅井博士は、特に太陽面爆発(フレア)に伴う衝撃波について観測波長の違いから異なる現象として報告されていた波動現象の関係を世界で初めて統一的に明らかにし、また、コロナホールと呼ばれる領域でのフレアが巨大磁気嵐の原因となることを世界で初めて突き止めたことが高く評価された。

椋山儀恵博士は、名古屋大学大学院工学研究科博士課程在学時、シカゴ大学に転出された指導教官の山本尚教授とともにシカゴ大に移動しそこで2005年にPhDを取得された。ハーバード大学で1年間ポスドクを務められた後、東北大学大学院理学研究科の助手(助教)となられ、2014年6月に准教授として分子科学研究所に着任された。大学院生時代BINAP触媒に銀などの金属を配位結合させることにより、不斉触媒として新たな機能をもたせることに成功したのを端緒として、以来、不斉分子触媒の開発を行っており、現在は水素結合やフッ素原子を利用して不斉空間をつくるというこれまで誰も思いつかなかった斬新なアイデアのもとに不斉分子触媒の開発をおこなっている。東日本大震災で甚大な被害を蒙った東北大学で研究室の復旧の主要任務に時間と労力を費やしつつ、研究を続行されてきた。

中村久瑠美会長の挨拶の中で、これまで32名の受賞者を輩出し、猿橋賞の受賞者もありこの賞の重みが紹介された。

賞の授与に引き続き両博士の受賞講演が行われた。浅井博士は、太陽爆発現象を分かりやすく図解され、研究の評価すべき点を示され皆が納得した。椋山博士は、不斉合成の基礎研究が私たちの生活にいかにか密着しているか、例を示し分かりやすい話であった。祝賀会には、ご家族にも出席いただき、参加者は親交を深め、終始なごやかな雰囲気で行われた。一昨年度第15回の受賞者の大矢根綾子博士のご挨拶の中でこの受賞がばねとなり社会に貢献すべく積極的に参加するようになったお話は、この賞が役に立っていることを実感した。

## 第18回 大学女性協会守田科学研究奨励賞 受賞候補者募集要項

**趣 旨**：本賞は、化学教育者・故守田純子氏から遺贈された資金をもとにして、自然科学を専門とする女性科学者の研究を奨励し、科学の発展に貢献する人材を育成することを目的として、1998年に設けられたものです。

**対 象**：自然科学分野において、優れた研究成果をあげており、科学の発展に貢献することが期待される40歳未満(2016年4月1日現在)の女性科学者を対象とします。

**授賞件数**：年 2件 以内  
賞状および副賞50万円を贈呈します。

### 提出書類\*

1. 研究題目とその概要、今後の展望および抱負 (A4判2頁以内)
2. 推薦状(厳封)
3. 履歴書  
記載項目:氏名(ふりがな)、(英字表記)、国籍、生年月日(年齢)、現住所・電話、所属機関(住所、電話、FAX、e-mail)・職名、(連絡先に○)、専門分野、学歴(高校卒から)、学位、職歴、賞罰
4. 研究業績リスト(主要な論文は○を付記)  
記載項目:原著論文(査読付)、原著論文(査読なし)、総説・その他、著書、受賞歴、学会発表(国際学会、国内学会(招待のみ))、競争的資金
5. 主要な論文5編以内の別刷り

\*返却いたしません。1. 3. 4. は各15部、2. は1通、5. 論文別刷り(コピーでも可)は3部提出のこと。

応募締切日：2015年11月20日(金)(必着)

選考結果の通知：2016年3月

書類送付先・連絡先：一般社団法人 大学女性協会  
〒160-0017 東京都新宿区左門町11番地6-101  
Tel: 03-3358-2882 Fax: 03-3358-2889  
http://www.jauw.org e-mail: jauw@jauw.org



## 太陽面爆発の観測的研究による宇宙天気研究の推進

京都大学宇宙総合学ユニット 特定准教授  
浅井 歩



太陽面爆発（フレア）は、太陽表面で発生する太陽系内最大の爆発現象である。フレアではあらゆる波長域で増光し、プラズマ噴出や衝撃波を伴って、大量のプラ

ズマを宇宙空間に放出したり、高エネルギー粒子を加速したりする。このため、フレアに代表される太陽活動現象は、宇宙空間のみならず地球環境へも影響を及ぼしており、その擾乱の程度を予測する「宇宙天気研究」が世界中で盛んに行われている。また、人類の宇宙進出に伴い、擾乱源としてフレアの発生機構やエネルギー解放機構の理解が決定的に重要な課題となっている。

フレアでは、太陽コロナに蓄えられた磁場のエネルギーが爆発的に解放され、さまざまな波長域で、あらゆる空間・時間スケールでフレアに付随する現象が観測される。そのため、多くの観測データに基づいた総合的な理解が必須である。一方、観測に基づくフレアの研究は、形態学的なアプローチが主流であり、定量的な議論に乏しかった。そこで私は、観測データを詳細に調べることで、フレアでのエネルギー解放機構についての物理情報を引き出し、その定性的な理解や理論モデルとの定量的な比較に成功するなど、フレアの総合的研究を行った。また、プラズマ噴出現象や衝撃波、およびその惑星間空間での伝播の様子を観測データから探ることで、宇宙天気現象を多角的に調べた。

さらに宇宙天気研究は、太陽-地球システム全体に関するものであり、太陽分野に留まらず、地球磁気圏・電離圏・太陽風など関連分野の情報が不可欠である。そのため私は、太陽活動現象と磁気嵐との関連について、関連分野の研究者と積極的な交流を行った。これにより、それまでの概念を覆し、一見静穏と見なされてきた活動領域で発生した噴出現象が高速の背景風を受けて地球に到達し、巨大な磁気嵐を引き起こす原因となることを世界で初めて突き止めた。

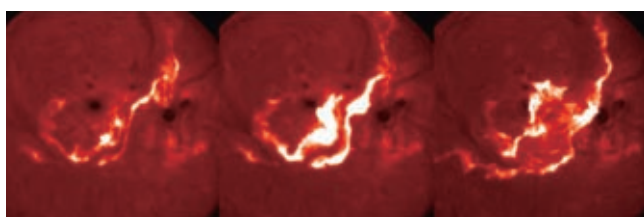


図) 2001年4月10日に発生した太陽フレアの画像。左から右へ時間が進む。  
京都大学飛騨天文台で観測。

## 不斉分子性触媒ならびに不斉反応の開発に基づくキラル小分子合成

自然科学研究機構 分子科学研究所 生命・錯体分子科学研究領域 准教授  
榎山 儀恵



地球上に生存する生命を特徴付ける性質のひとつがキラリティーである。ほとんど全ての生体系は、本来的にキラルでありエナンチオマー的に純粋である。このことは、

物質のキラリティーが医薬品を代表例に私たちの日常に浸透している所以である。私たちの社会に欠かすことのできない物質・材料にキラリティーを組み入れること、それを可能にする一連の方法論を開発することは、次世代の純粋化学と応用化学の両面、そして材料科学において、極めて大きな意味をもつ。その有力な方法のひとつが、不斉合成である。

私は、不斉分子触媒ならびに不斉触媒反応の開発によるキラル小分子の不斉合成に関する研究に従事してきた。例えば、ルイス酸触媒存在下、ニトロソベンゼンがエノラートに対しオキシ化剤として機能することを発見し、カルボニル化合物の $\alpha$ 位オキシ化反応として確立した。本反応は、学術誌に報告後、その新規性と有用性のため多くの研究者によって検討が行われ、現在、カルボニル化合物の $\alpha$ 位のオキシ化反応として最も有効な反応のひとつとなっている。実際に、生理活性物質や天然物合成にも応用されている。

私は、上記の発見を契機として、金属-配位子錯結合を機軸とするBINAP・銀錯体の開発と構造解明、水素結合を鍵とする不斉分子触媒の開発に成功した。近年は、水素結合やハロゲン結合など、「強さ」と「方向性」をもつ非共有結合性の相互作用を活用する不斉分子触媒の設計や不斉合成反応の開発を進めている。不斉空間の構築ならびに不斉反応の開発において、「金属-配位子錯結合」よりも弱い相互作用である「水素結合」や「ハロゲン結合」の潜在的有用性を明らかにしつつある。

「水素結合」や「ハロゲン結合」による不斉空間の構築ならびに不斉反応の開発は、「金属-配位子錯結合」を機軸とする不斉分子触媒に比べ歴史が浅い。今後の研究により、キラルな分子やキラル材料を供給する新たな方法論として、水素結合やハロゲン結合の「強さ」と「方向性」を利用する戦略を確立し、キラル物質開発への応用展開を目指したい。

本部からの報告

2015年 JAUW 全国セミナーのご案内 企画委員会

本年10月17～18日につくば国際会議場において、今年のシンポジウムに続いて、「女性自立とは？－女性の自立をばはむものはなにか」というテーマでセミナーを開催いたします。

今年のセミナーは内閣府が公募した「国・地方連携会議ネットワークを活用した男女共同参画推進事業」に応募し当協会のセミナーの企画案について、男女共同参画推進連携会議企画委員会（平成27年6月9日）において共催が決定しました。

1日目は

基調講演と支部・委員会及び外部団体(マルイチ会)の発表

2日目は

茨城支部会員の講話と共催の茨城行政相談委員協議会の講演

「①考えよう！女性と法律・社会通念 ②どうする？女性と税制・社会保障 ③これからの女性と仕事」の参加型分科会とパネルディスカッション「女性の自立支援を考える」です。

是非多くのみなさまの積極的参加をお待ちいたします。

「めげないわたし養成講座」いよいよスタート 女性エンパワーメント委員会

女性エンパワーメント委員会が国際ネットワーク委員会及び東京支部の協力を得て1年間の準備を重ね、去る5月29日に第1回をスタートしました。全5回の講座と夏季合宿で構成されるシリーズⅠは、「女性と仕事～働き方の多様性を求めて」をテーマに、①会員増強・②若い方々への繋ぎ・

③ジェンダー施策推進と社会の現実のはざままで生きにくさを抱えながらも前進する女性への応援が目的です。

第1回は、全講座の底を支えるコミュニケーションをテーマとする「アサーティブトレーニング基礎」でした。アサーティブとは、相手と対等な関係を築くための対話スキルですが、自分も相手も責めないスキルを学び、以後の講座のセッションへの導入ともなるべきルールを敷いていただくことができました。『「キャッチボール」でなく「ドッチボール」になっていませんか？』との講師の問いかけに、自他を捉えなおす契機をいただきました。

6月26日開催の第2回目は、依然として男社会といわれるメディア業界で管理職として両立支援研修を担当、奮闘する女性の経験談です。男性の育休取得が進む現況や、力はあるがリーダーが育たない問題点と課題を語っていただき、共に育って行くリーダーシップを目指します。講師との打ち合わせでは、「女性って、挽回も可能！」の言葉に励まされました。申し込みを随時受付けています。

夏季合宿では寝食を共にしながら、楽しく学び語り合しましょう。皆様のご参加をお待ちしています！



夫婦のロールプレーを演じる鷺見、城倉両委員長



山崎倫子元会長をお偲びして

丸山 庸子

1980年、山崎倫子会長が就任後、先ずされたことは、事業計画及び予算決算書を検討し、会費値上げを請求された事でした。私は山崎会長の、公益性の強い社団法人としての事業に対する厳しさと、覚悟のようなものを感じ、はっとしたのを今も覚えています。

文部省国庫補助事業のテーマは「80年代を生きる」1. 高齢化社会をむかえて 2. 家族を巡る問題とその国際比較 3. 生涯教育を考える 以上をメインテーマとし、3年間連続セミナーを行うことでした。後にこの道の大家・樋口恵子氏がその先見性に驚いておられたと聞いています。

1982年、1983年、1984年は、国連NGO国内婦人委員会から推薦を受け、政府代表代理として国連総会に出席、また IFUW からの要請でパリ会議（1981年）にも出席、あえて女性の社会的・人間的要素が、経済的発展の陰で軽視されてしまうことのないよう、外務大臣宛要望書も提出されています。

山崎会長ご夫妻はお二方ともお医者様で病院を経営しておられました。社会活動家・倫子会長の真髓は、ゆくゆくは残り空き地も共に市に寄付し、建築は市に委ね、ケアはボランティアを主体として、この高齢者ケアセンターを存続させることでした。「皆さん喜んでくださるのよ」それは嬉しそうな倫子先生の笑顔が忘れられません。





# 委員会報告

## 留学生と祝う雛祭り

文化交流委員会 宮下 好子

女兒の幸福と成長を願って雛を飾る日本古来の伝統行事、これを留学生にも家庭で体験してほしいと、委員長宅で雛祭りを祝う集いを始めて3年が経ちました。

ちらし寿司、蛤澄まし汁の他、各委員の手作りの料理で迎え、伝統料理、雛祭りの由来等を説明いたしました。留学生からも日本文化に関して活発な質問があり、和やかなひと時でした。橋本委員の「箸」、端本会員の「書道」は特に留学生の興味が深かった様です。こけしなど年中飾る人形もあるのに、雛人形だけが春に限定される理由を質問され、中国由来の上巳の節句が三月に行われていたことに由来すると説明できなかつたことが残念です。

後日、津田塾大学と留学生アリエルさん（米国）から下記の礼状をいただき、本企画の目指す交流が達成されたと胸が熱くなりました。《雛祭りのイベントに家に誘ってくれて有難うございました。あなたのひな人形は、とても立派なでした。そして和食とお寿司は美味しかったです。いい出会いもあったんです。ほかの国からの留学生ととても優しい

おばさんたちといろいろな会話をしたって素敵な経験でした。》  
(原文ママ)



留学生とお雛さまを囲んで

## 能楽のたのしみ～生きる力を伝えるために～ 東京支部 ときえだひろこ

〈JAUW の団体鑑賞に いつもお世話になっています〉

最近6月13日（土）午後、狂言「饅頭」と能「実盛」を、国立能楽堂で観ました。日本語が母語の人は得と思うのは、能楽鑑賞のときです。開場時刻に入場、プログラムの「あらすじ」と「詞章」を読んでおけば、十分に楽しめます。舞台から聞こえて来る音声は古語で、現代の日常とはちがう調子ですが、同じ日本語のありがたさ、年齢と共に理解力が上がって参ります。地謡と奏楽のリズムは、懐かしい和歌にも通じます。それゆえ、遙かな子守歌効果を常連のお客様にも及ぼしています。これは世界遺産にまで認められた能楽の、風雪に耐えた数百年の経緯で、テンポが緩くなった結果のようです。そのおかげで、異界の霊が登場している時間も長くな

り、現代の都市に暮らす人に、日ごろの心疲れを忘れ、舞台上の祈りに巻き込まれる感じを与えます。装束や所作の美しさに加え、物語には今後の地球人の持続的平和への示唆が、豊かに含まれています。

〈次の団体鑑賞のとき 是非お会いしたいと思います〉



国立能楽堂にて

## 広報委員会張り切っています！

JAUW 会報第255号が発行となりました。会員の皆様はじめ、さまざまな方々のご協力のおかげです。

さて、会報も3年前より冊子になりカラー化で見やすく、興味を持って読んでいただけるようになりました。今年度は、30代、50代の新人も増え、ますます張り切っております。

いつもは、年3回の発行にあわせて、3グループに分かれ作業しております。パソコンが主流となり、委員同志のコミュニケーション不足になりがちですが、255号の編集会議も兼ねて梅雨の晴れ間の6月20日（土）、神楽坂のレストランで委員全員が揃い、親睦をはかりました。

会員の皆様のなかで、編集、校正にご協力いただける方のご参加をお待ちいたしております。また、会報についてのご意見、ご希望がありましたら、どうぞ、お申し出ください。



神楽坂レストランの前で

## 2014年度 国際奨学生報告会・2015年度 選考結果

オルガ・マシェディさん (ケニア)  
シリア・タヤさん (タイ)

国際奨学委員長 廣田 里子

2月21日、アルカディア市ヶ谷において、2014年度の2名の国際奨学生の研究報告会を行った。

アスペルギルス属に属する多くの麹カビは発ガン性、腎毒、肝毒など極めて高い毒性を持つことが多い。オルガさんは、主食トウモロコシをはじめケニア各地で生産されるおよそ200種の穀物を脅かすいろいろな黒麹カビの種類を特定し、それらの分子生物学的特性を解明する研究を行った。今回の研究結果を纏めて、今年度のアメリカ微生物学会に提出する予定とのことだ。日本で「コウジカビ」といえば、日本酒、味噌、食酢、醤油、泡盛など、伝統的な発酵食品の製造に不可欠の有用なカビという認識が一般的だが、これらはごく一部の特殊な麹カビであることを知り、目を開かれた。

一方、タヤさんが取り上げたのはタイ北部に棲息するアオミドロの一種スピロギラ・ネグレクト。これは、従来から抗酸化作用、抗変異作用、血糖や脂質の上昇抑制効果やガン病変の抑制効果などがあるといわれてきた。今回の研究で、彼女はその具体的な作用機序の解明に取り組み、腸炎罹患のラットにこの緑藻からの抽出物を投与すると腫瘍の増殖活動が有意に抑制され、ガン細胞のアポトーシスが有意に増加することを突き止めた。タヤさんは、今後、プロテオーム解析と伝令リボ核酸発現の検証を行ってこのアオミドロの作用の全容を追究することを目指している。

### 2015年度国際奨学生選考結果

5月30日の理事会の承認を経て2015年度の国際奨学生2名が正式決定した。

レーナ・エーロライネンさんはヘルシンキ大学の院生で日本映画の研究に携わりつつ、2012年以来手がけてきたアジア映画祭を今年3月、ヘルシンキで開催した。

英語はもちろん、日本語も流暢な彼女の今回の研究テーマは「第二次大戦後の日本の怪奇映画にみる社会的怪物の変化」である。ドクター論文作成のためのテーマだが、彼女

は、すでに修士論文で関連のテーマを取り上げ、その成果は「黒沢清とホラーのメカニズム」(日本語)と題してインターネットで公開されている。今回の来日では「変身」について、社会学的観点をはじめ、ポップカルチャーや古い民話などからも分析するため、国会図書館や早稲田大学で日本語の資料を集める予定だとか。構想は大きく、家族構成の変化、職場の人間関係、ジェンダーとも関連づけたいと意欲的だ。

一方、ブルガリア出身のニーナ・デェンベコヴァさんは有害なアオコを産生する藻類の分子診断技術の習得を目指して、水産総合研究センター中央水産研究所(横浜市金沢区)に滞在する。

富栄養化が進んだ湖沼等で水面を覆い尽くすほど微細藻類、いわゆるアオコが異常に大量発生することがある。有毒アオコはアサリ、カキ、ホタテ、ムール貝をはじめ多くの魚介の汚染原因となり、水産養殖を脅かす。悪臭を発する汚染水は肝機能障害やガン発生などの健康被害をもたらす。近年、こうした微細藻類の被害が欧米や広く日本海域、オセアニア、インド洋に広がっている。母国の黒海沿岸の汚染を憂慮したニーナさんは、日本で開発が進んでいる分子診断技術を習得して、母国のモニタリング・プログラムの作成と活用に貢献することを目指している。



オルガさんとタヤさんを囲んで

### 未来を拓く自己表現 イザドラ・ダンカン・ダンス

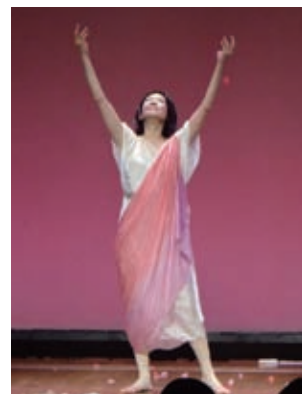
事業委員会 宮下 好子

-6月25日 けやきホール-

梅雨時の奇跡的な晴れ間の一時、佐藤道代氏(ダンサー)と吉岡優子氏(ピアニスト)によるコンサートが行われた。20世紀初期、古典バレエに反旗を翻し、新しく自由なスタイルを確立したイザドラ・ダンカン。そのおおらかな身体表現と繊細かつ魂を慰撫する様な優しいピアノ演奏とのコラボレーションは、会場に静かな興奮と驚きをもたらし、あらゆる束縛から解放されるかの様に裸足で、柔らかな衣装を纏ったダンサーの迫真の演技に、観客は、嫺やかな

な風につつまれて安らぎ、しかし次の瞬間には情熱的な恋におちてその恋に苦しみ、まるで自身の人生を回想しているかのように心を揺さぶられた2時間であった。洗練された衣装にも踊り手の嘆き、迷い、決意の清々しさを感じることができた。「美しい水芭蕉がいつまでも静かに咲く大地でありますように、そして福島の大地を護り育ててきた生き物、人々に捧げます」と、故郷福島の再生を願う佐藤氏の深い思いを込めた踊りに、観客の心は一つになった。演者と観客とが共に舞いながら、大地と心の統一を祈ったことも印象的であった。

事業委員会では、学生、勤務のある方等、多くの方々にJAUWの活動を知ってほしいという思いから、初めて夕方にコンサートを実施した。



表現豊かに踊る佐藤道代さん

### 秋のコンサートのお知らせ

～秋の幻想的名曲アルバム～

ヴァイオリン 近藤 薫 (東京フィルコンサートマスター)  
ピ ア ノ 魚谷 絵奈 (洗足学園音楽大学非常勤講師)  
司 会 松田 亜有子 (東京フィル広報渉外部長)  
日 時: 11月10日 (火) 午後2時開演  
場 所: けやきホール (古賀政男音楽博物館)



# 支部だより

## 北から～南から

### 先輩からのバトンを次の世代へ！ 金沢支部長 柳生 裕子

Q 最近の支部の活動は？

A 金沢支部は1988（昭和63）年に設立され、金沢支部の前身である「大学婦人会」は1950（昭和25）年に結成、金沢支部を設立するまでの38年間活動を続けたので今年で65年間の活動となります。

金沢支部ではタイ・バンコク・スラムの子供達に奨学金を送ること、インド・カシミールの女子大学生に奨学金を支給する（インドの銀行に預金してその利息で毎年10名に奨学金を贈っている）ことなどの教育支援活動を続けています。

また年3回の研究会や研修旅行の時には、福井支部の方々をお誘いし、公開講演会では地域の人達との交流の機会も設けています。

新年会では金沢市や石川県の国際交流員や留学生をお招きしてそれぞれの国の現在の姿を紹介してもらい国際交流をはかっています。

Q ご当地自慢・支部自慢は？

A 支部の特徴としてはそれぞれの会には2人の当番が企画から当日のお世話まで行っていることでしょうか。特に研修旅行の際はさらに数人が加わり下見や試食も行い、当番グループのコミュニケーションが密になって良かったという声もあります。

Q これから力を入れていきたいことは？

A これからは他の支部とも共通ですが、設立当初からの会員もいらして高齢化が進み、またお亡くなりになる方もいらっしゃるのので、研究会に若い方をお誘いして会員になってもらう様に努力したいと思います。



総会の写真

### 港神戸の笑顔のおもてなしをご期待ください 神戸支部長 平井 典子

Q 最近の支部の活動は？

A 今期は月例会の講師を学究生活継続の会員に依頼、専門分野の研究発表を傾聴して錆びた頭脳の活性化を目指しています。また外部を巻き込んだ企画は会員の主催する音楽財団の定期コンサートを協賛し、ヘンドルのオラトリオ観賞会を一般観客と共に楽しみます。また神戸支部の柱を女子学生の研究支援と銘打ち、本部奨学生募集と同時に支部奨学生募集を続けています。例会でのレジュメ発表を選考会とし、ランチパーティでの授与式には応募者全員を招き、各自の研究報告を会員に披露します。

次に、国際都市の神戸は各大学に留学生も多く、国際交流を神戸支部のもうひとつの柱とし、例年、観劇やバスツアーを主催し各国の留学生支援をしていますが今期は留学生と神戸支部奨学生のパネルフォーラムを企画し国ごとの男女格差の問題提起をいたします。

Q ご当地自慢・支部自慢は？

A 市会議員経験者や役所の関係者、現役議員の会員から男女共同参画の調査、男女議員の意識調査、女性の地位向上のための講演など神戸支部活動に力強い協力をいただいております。京都、神戸、奈良、大阪の4支部協同企画として女性の地位研究を取り上げ、合同例会を実現したいと願っています。

Q これから力を入れていきたいことは？

A 本部総会準備に気合を入れて取り掛かっております。6月例会では今期総会のスライドと仙台支部の手作りの素晴らしい懇親会を会員に報告し、その後、実行委員会を立ち上げ、総会準備の検討会議を開催いたします。新緑の六甲の山懐に包まれ、海へ開けたエキゾチックな国際都市神戸の魅力を充分にお楽しみいただけるよう知恵を絞っております。神戸おとな旅のエクスカッションはオシャレと海の幸をお楽しみください。



総会報告はPowerPointで三木谷実行委員長が説明、出席会員は真剣に映像に見入っています。

2015年 JAUW 全国セミナーのご案内

「女性の自立とは？－女性の自立をはばむものは何か－」

会場：つくば国際会議場  
 主催：内閣府、男女共同参画推進連携会議、  
 一般社団法人大学女性協会  
 共催：茨城行政相談委員協議会  
 後援：茨城県（予定）  
 ☆1日目 10月17日（土）13：00～17：00  
 基調講演：鹿嶋 敬氏（一般財団法人女性労働協会会長）  
 発表：支部・委員会及び外部団体（マルイチ会）  
 ☆2日目 10月18日（日）9：30～16：00  
 講話：長沼早苗氏（税理士、茨城支部会員）  
 講演：共催団体「茨城行政相談委員協議会」  
 分科会 ①考えよう！女性と法律・社会通念  
 ②どうする？女性と税制・社会保障  
 ③これからの女性と仕事  
 パネルディスカッション「女性の自立支援を考える」  
 詳細はホームページをご覧ください。

東日本大震災災害地支援事業 特設委員長 高田 武子

一高校奨学生の募集を終えて－

2011年から始まった東日本大震災災害地支援事業（高校奨学金）は、会員・IFUW 会員からの多くのご寄付（670万円余）があり、予定より多く奨学生の支援が出来ましたことを深く感謝申し上げます。5年間で応募した高校は31校、61名の応募があり、20人（女15名、男5名）が奨学生となりました。2018年まで支援は続きますが、支援終了の奨学生からは「大変有り難かった、安心して勉学に励めた」との感謝文が寄せられ、この事業が若者の夢と希望をつなぐことが出来たことを嬉しく思います。

秋の広島親睦旅行（広島支部を訪ねて）

日時 2015年11月15日（日）～16日（月）（バス旅行）  
 第1日：広島駅新幹線口各自集合（11：30頃）－昼食－呉大和ミュージアム－平和記念公園－広島市内（夕食牡蠣料理）－グランドプリンスホテル広島泊  
 第2日：ホテル－岩国錦帯橋－宮島厳島神社散策－昼食（広島支部会員との会食）－広島駅新幹線口にて解散。  
 参加費：約33,500円  
 申込締切：10月10日（キャンセルは10月20日までに）  
 申込：（一社）大学女性協会事務所 Tel：03-3358-2882 HP、あるいはチラシを参照ください。

お知らせ 事業委員会

- ・催し物  
 《第2回苔玉作り》於 事務所会議室  
 日時：9月30日（水）13：30～ 15名  
 《第7回街歩き－ニコライ堂界隈》  
 日時：11月 予定
- ・文楽  
 「妹背山婦女庭訓」於 国立小劇場  
 日時：9月11日（金）16：00～

理事会から

- ▶ 元 JAUW 会長山崎倫子様が5月29日、96歳で天寿を全うされました。ご冥福をお祈りいたします。
- ▶ 第4回定時会員総会で選任の菊池摩耶子理事は、第2回通常理事会において総務担当理事に承認されました。
- ▶ 事務所の夏期休業期間は8月12日（水）～8月18日（火）

2015年度国内奨学生募集のご案内

一般社団法人 大学女性協会 2015年度国内奨学生募集要項

- I 応募資格
- 一般奨学生 文部科学省の認可する大学の大学院に在籍1年以上の女子学生で、学業人物ともに優れた者。
  - 社会福祉奨学生 文部科学省の認可する大学の学部・大学院に在籍1年以上の女子学生で、身体に障害があり、かつ学業人物ともに優れた者。
  - 安井医学奨学生 文部科学省の認可する大学の大学院に在籍1年以上の女子学生で、医学・歯学・薬学を専攻し、かつ学業人物ともに優れた者。
- \*備考
- ・経済的理由は、一切問わない。
  - ・1大学から各部門1名ずつ応募することができる。
  - ・過去に当協会の奨学金を授与された者は、再度応募することはできない。
  - ・在籍年数に休学期間は含まない。
  - ・翌年2月末日に、現在の大学に在籍であること。
  - ・社会福祉奨学生は、身体障害者手帳の交付を受けていること。
- II 支給額および募集人数
- 一般奨学生 大学院生 20万円 6名
  - 社会福祉奨学生 学部生 10万円
  - 大学院生 20万円 学部生、大学院生合わせて3名以内
  - 安井医学奨学生 大学院生 30万円 1名
- \*備考
- ・応募状況により奨学生人数を変更することがある。
  - ・奨学金は1回限りである。
- III 提出書類（ホームページからダウンロードして使用のこと）
- 履歴書（写真貼付）
  - 一般社団法人大学女性協会国内奨学生推薦書  
 ・記入者は在籍する大学の学長・学部長・学科長・指導教員のいずれかであること。  
 ・学長氏名・印又は奨学金担当者職名・氏名・印が必要。
  - 研究・勉学の内容について  
 ・大学院生は様式 A  
 ・学部生は様式 B
  - 研究および活動業績リスト  
 ・大学院生のみ
  - 学業成績証明書  
 ・在籍する（直近に在籍した）大学院（学部生は大学）のもの。
  - 身体障害者状況報告書と身体障害者手帳の写し  
 ・社会福祉奨学生のみ
- \*備考 ・(1)(2)(3)(4)(6)は、所定の様式に従う。
- IV 応募方法および締切り
- 応募者は、応募書類を在籍大学へ提出する。大学は一括して2015年8月28日（金）（必着）までに、支部が設置されている道府県の大学は当該支部に、支部が設置されていない県の大学は本協会本部に、応募書類を提出すること。
- V 結果通知
- 選考結果は、本人・大学学長・推薦支部長に2015年11月末日までに通知する。
- VI その他の留意事項
- 一般奨学金、社会福祉奨学金、安井医学奨学金を授与された者は2017年3月31日までに本協会会長宛に「研究成果報告書」を提出すること。
  - 国内奨学金贈呈式は2016年1月の予定。（詳細は後日通知する）
  - 東日本大震災被災者は、その旨を履歴書・自己紹介書の該当欄に記載することができる。
  - 不明の点は当協会又は当該支部に照会のこと。
- 本部 e-mail kokunaifellowship@jauw.org（国内奨学担当）

新入会員 理事会承認 2015年4月～6月

- |      |       |      |       |      |       |
|------|-------|------|-------|------|-------|
| 茨城支部 | 飯田 久子 | 茨城支部 | 滝 陸美  | 東京支部 | 富井 明子 |
| 東京支部 | 早川 恵子 | 東京支部 | 山本 悦子 | 福井支部 | 北野千栄子 |
| 京都支部 | 浅井 歩  | 神戸支部 | 小柴 裕子 | 神戸支部 | 藤澤 貴子 |
| 神戸支部 | 藤本由利子 | 神戸支部 | 松本 智子 | 神戸支部 | 三浦 美保 |

一般社団法人 大学女性協会

〒160-0017 東京都新宿区左門町11番地6-101  
 電話 03-3358-2882 F A X 03-3358-2889  
 http://www.jauw.org E-mail:jauw@jauw.org  
 発行人 中村 久瑠美 編集責任者 端本 和子  
 発行日 2015年7月27日